



三島康雄先生近影

献 辞

学 長 神 木 哲 男

経済学博士・三島康雄先生は、平成4年4月、奈良県立商科大学教授に就任され、平成6年4月には同学長に選ばれ、平成12年3月に同職をご退任になるまで、本学の発展に全力を尽くされた。

三島先生は、大正15年5月3日にお生まれになり、旧制松江高等学校を経て、昭和27年3月京都大学経済学部をご卒業、その後さらに同大学院でご研鑽を積まれたのち、中京大学商学部、東京水産大学水産学部をへて、昭和45年4月に甲南大学経営学部教授に就任され、平成4年3月まで同大学において研究・教育に従事された。その間同大学図書館長、学生部長等を歴任されるとともに、ケンブリッジ大学で在外研究に従事され、またイリノイ大学では日本経営史の講義を担当された。

先生は、経営史をご専門とされ、現在に至るまで一貫して日本における経営史研究を先導してこられ、斯界における開拓者的役割を果たしてこられた。昭和36年に出版された『経営史学の展開』は、わが国における経営史研究の嚆矢ともいふべき記念碑的業績であり、つづいて『北洋漁業の経営史的研究』を公刊され、このご業績によって「漁業経済学会賞」を受賞された。その後財閥研究に精力を注がれ、三菱財閥、阪神財閥の研究をはじめ、川崎正蔵の伝記、平生夙三郎の日記（抄）を公にされるなど、その研究業績は多彩を極める。さらに、本学に移られてからは、奈良の企業史の研究にも手を染められ、『奈良の老舗物語』を上梓されている。

学会活動においても、先生は開拓者としての役割を果たしてこられた。昭和35年、先生が呼びかけ人の一人になられて「経営史研究会」が発足し、わが国における経営史の本格的研究が開始された。この研究会を母胎として昭和39年11月、先生は発起人として名を連ねられ、「経営史学会」が設立された。先生は、発足当初から評議員、ついで理事、昭和54年から4年間は常任理事として学会の発展に尽くされ、文字通り、経営史学会の生みの親、育ての親としての役割を果たされた。

また大学基準協会国際交流研究委員会委員・兵庫県漁業経営指導協会会長・奈良県中小企業情報センター運営委員会委員、奈良県地方労働委員会公益委員をはじめ、その他数多くの審議会の委員などを務められ、学識経験者として地域社会の発展にも多大の貢献をしておられる。

平成6年4月、三島先生は、本学第3代学長に就任されたが、時あたかも全国的に大学改革の大きなうねりがあり、本学でも21世紀をひかえ大学の将来像について種々検討が加えられた結果、地方分権の時代に地域の発展に貢献する人材養成を目的とした「地域創造学部」への改組転換が決定された。先生は、新学部創設実行委員会を組織し、カリキュラム改革・教員充足など改組転換のための諸改革に力を尽くされ、本学は、予定通り平成13年4月、校名も奈良県立大学と改称して新発足する運びになっている。

先生は、中国の禅宗の始祖・達磨大師の肖像や彫像の収集をご趣味の一つにしておられるが、先生の風貌、最近とみに達磨大師に似て魁偉にして温顔、ただに風貌にとどまらず、達磨大師の包容力と忍耐力と実行力をもって本学および学界の発展に寄与されたのである。本学は、先生の多大のご貢献を讃え、感謝の微意を表すため、先生に名誉教授の称号をお贈りした。

先生がいつまでもご壮健で、ますますご活躍されることを心からお祈りしたい。